# 英語 授業づくり講座　～南国市立日章小学校～

発行
令和５年12月
中部教育事務所

**単元**　第６学年 Where do you want to go in Nissho?　～Junior Sunshine 6　Lesson 3　Where do you want to go?～

**本単元で育成を目指す資質・能力**
身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す力。

**領域別目標**
「話すこと［発表］」
ウ　身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

## 教材研究会

**グループ協議より**　協議の視点：児童の気付きを引き出し、思考を深める指導となっているか。

**総合的な学習の時間との関連**を図り、児童がよく知っている地域のことについて発信する題材設定のため、児童自身が「発信したい」という意欲をもって取り組める。

友達、先生、留学生、と、伝える相手を広げていく単元計画のため、**相手に応じて表現を工夫**していく必要があり、児童が段階的に思考を深めていける。

**前時のグッドモデルをもとに本時の課題へつなげる**流れは、児童が発話をより良いものにするための思考につながるものである。

**改善策**
「相手が行きたい場所」ではなく、「児童が勧める場所」について紹介する活動にすると、より主体的な活動となるのではないか。

## 授業研究会

単元目標：留学生に、日章地区の良さを知ってもらうために、おすすめの場所について、その場所でできることや特徴など、相手に伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを加えて話すことができる。

後日、「国際交流」の時間に来校した留学生に、日章地区の良さを知ってもらうために、おすすめの場所でできることや特徴、自分の思いなどを加えて紹介する。

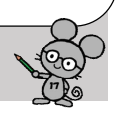
**本単元における各時間の目標（全６時間　本時５時間目）**

| 第１時 | 第２時 | 第３・４時 | 第５時（本時） | 第６時 |
|---|---|---|---|---|
| 単元ゴールのイメージをもつとともに、行きたい国を伝え合うことができる。 | 地域の中で行きたい場所についてたずねたり答えたりすることができる。 | 友達に、地域のおすすめの場所でできることや特徴を伝えることができる。 | 日章地区のことをあまり知らない先生に、日章地区の良いところを知ってもらうために、地域のおすすめの場所でできることや特徴、自分の思いなどを伝えることができる。 | 「国際交流」の時間に来校する留学生に発表するために、地域のおすすめの場所でできることや特徴、自分の思いなどを、整理して伝えることができる。 |

**本時の展開**

| | |
|---|---|
| Small Talk | タブレットで写真を提示しながら、ペアで「日章地区にあるおすすめの場所」を紹介しあう。 |
| めあての確認 | 単元の目的や場面、状況、及び、本時のめあてを確認する。 |
| 見通し | グッドモデルとなる児童の動画を視聴し、どのような工夫ができるか考える。<br>→ぶつぶつタイム　内容を検討し、１分間、個人で練習する。 |
| Activity 1 | 参観している先生に、日章地区にあるおすすめの場所について紹介する。 |
| 中間指導 | 今日新たに加えた表現や、聞き手からもらったアドバイスを共有する。<br>→ぶつぶつタイム　内容を再検討し、１分間、個人で練習する。 |
| Activity 2 | Activity 1 と同じ聞き手に、工夫を加えておすすめの場所を紹介する。 |
| 中間指導 | Activity 2 の活動で付け足して言えた表現について共有する。 |
| 動画撮影 | 各自タブレットを使って自分の発話を録画する。 |
| 振り返り | 今日の授業で大事だと思ったことや、気付いたこと等を記入する。 |

中間指導で個々のつまずきを全体で解決し、本人に返して言えるようにしているため、その後、自信をもってチャレンジできていました。



**ICT 活用**

「話すこと［発表］」の力を育成するにあたって、本事例では毎時間、授業の最後に発話を録画し、提出させている。撮り溜めた動画を見返すことで、学びを振り返り、メタ認知することができるので、児童が自己調整していくのに有効なツールとなっている。指導者も個々の達成状況が把握できるので、次時の指導や支援に生かすことができる。

本事例ではさらに、グッドモデルとなる児童の動画を全体共有し、工夫点に気付かせ、他の児童の参考にさせている。子どもの具体の姿から、学級全体の子ども達に学ばせることで、主体的で対話的な学びとなっていた。

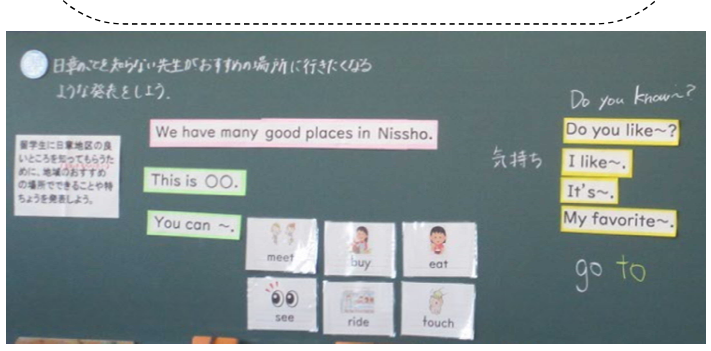
**グループ協議より**　協議の視点：児童の気付きを引き出し、思考を深める指導となっていたか。

**誰に、何のために伝えるのか**という目標を**児童と何度も確認する**ことで、児童は主体的に思考し、表現をどんどん広げていた。

児童が本時に加えた表現について、**なぜそれを伝えたかったのかを問う**ことで、本時のめあてに向かって思考を深めさせていた。

日章地区のことを知らない相手に伝えるという**「ほんもの」の活動**を通して、もっと情報や思いを伝えたいという**意欲が高まった**。

**改善策**
ALT を活用して、児童が伝えたい内容をさらに広げたり、表現の正確性を高めたりできると良かった。




## 文部科学省初等中等教育局 直山 木綿子 視学官 による指導・助言

**教師から一方的に与えず、子どもたちに考えさせ、答えさせることで、子どもは子どもから学ぼうとする。教師の仕事は、子どもから良いものを引き出して、どこが良かったか整理してやること、そして、わからなかったことを、みんなで既習語句や表現を使って考えて、落とし込んであげることである。**

**「言語活動を通して」資質・能力の育成を図るためのポイント**

○本時において、授業者は子どもたちからどんな気付きを引き出したいかを明確にもっていたので、子どもの気付きを受けて、ポイントとなる表現カードを黒板に貼っていた。これは、教材研究、つまり、授業のシュミレーションができているからである。子どもの反応を想定して流れを組んでおけば、授業がぶれることはない。

○中間指導などでグッドモデルとなる発話を全体共有した際に、授業者が答えを言ってしまうと、子どもに学びがなく、思考が深まらない。子どもから引き出すことが大切である。また、「どんな英語を使ってた？」「どこで使ってた？」「どんな気持ちになる？」というように、その表現の使用場面や効果まで問い返し、実際に使えるようにすることもポイントである。

○「活動→指導→活動」という公式のようなものに則って授業をすることだけが、資質・能力を育成する手段というわけではない。本時の授業では、教師からの働きかけだけでなく、友達とのやり取りを通して気付き、自己調整を図る子どもたちの姿が見られた。子どもは子どもから学び、より良いものにしようと思考し、表現を工夫する。子どもの変容を促す授業づくりを行いたい。

○子どもは間違うこともあるし、間違いから学ぶ。お互いの間違いから学びあえる集団こそが「学習集団」と呼べる。授業を通して、学習集団へと育てていくことが大切である。

**グッドモデルとなる児童の動画を全体で視聴した後のやり取り**

T　：What is good point?
C1：質問していた。
T　：どんな質問していた？
C1：Do you know ～?って言っていた。
T　：（黒板に「Do you know ～?」と書いて）他には？
C2：○○-san is kind.と、自分の気持ちを言っていた。
T　：（黒板に「気持ち」と書いて）
　　気持ちって、他にどんな言葉で伝わる？
C3：I like ～.とか。　C4：My favorite ～.もある。
T　：（黒板に「I like ～.」「My favorite ～.」のカードを貼る）
C5：nice も使っていた。
T　：nice はどこで使っていた？
C5：Nissho Noen is (a) nice fruits shop.って言っていた。
T　：nice があるのとないのとではどう違う？
C4：すごくいい所だと思っていることが伝わる。